

私立短期大学図書館協議会 北海道地区協議会通信

No.44

2023年

3月31日

釧路短期大学附属図書館(編集) 私短図協北海道地区協議会(発行)

講演「絵本が紡ぐフォークロア～現代絵本に描かれてきたもの～」

帯広大谷短期大学附属図書館司書・絵本専門士 水野 有子氏

第73回北日本図書館大会北海道大会・第62回北海道図書館大会 第2分科会
2022(令和4)年6月8日(水)～7月15日(金)
オンライン開催(オンデマンド動画配信)

第62回北海道図書館大会の第2分科会は、私立短期大学図書館協議会北海道地区協議会として、企画提案、運営を担当したものです。令和4年度の北海道地区協議会の研修会も兼ねています。講師は絵本専門士でもある、帯広大谷短期大学附属図書館・水野有子司書に、お願いいたしました。第2分科会は動画再生数325回を数え、参加者の関心が非常に高かったことがうかがえました。

「世代を超えて読み継がれる絵本が、当時の生活様式や慣習を示すフォークロア(伝承・民俗)となりえる」と、1950年代から現在までに出版された絵本の紹介とともに、そのバックボーンとなる子どもの読書環境を巡る社会的な変化を整理し、わかりやすく紹介していただきました。

長く愛される本には、時代に左右されない普遍性が兼ね備わっていること。また絵本は「大人から子どもに与えられる」という性質上、子ども時代に響かなかった本は、のちの世代へとつながりにくいこと。今も昔も変わらない子どもの感性に訴えかける作品こそが、次のロングセラーとなり、長く読み継がれることなどが紹介されました。だからこそ、刊行年に関係なく多くの絵本にふれられる図書館の存在は重要であり、果たす責務は重大との考えを示されました。

これまで、絵本の魅力や読み聞かせの実践方法を学ぶ機会があったものの、絵本それ自体の歴史を学んだ経験は少なかったので、大変勉強になりました。

また、絵本が歴史や文化を次世代へと継承

する媒体であると強く意識する機会となり、これまでにない新たな視点を持つことができました。

絵本が子どもに与える影響の大きさを考慮し、今後の選書や展示に活かしていきたいと思えます。

今年度の北海道図書館大会は、第73回北日本図書館大会北海道大会を兼ねて開催されました。令和3年7月に登録決定された「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産に関連して、「縄文遺産からICTへ～図書館がつなぐ時代、場所、人～」のテーマにちなみ、基調講演は「“ライブラリー・ダイバー”～世界遺産『縄文』の意義を図書館で探す～」と題して、東北芸術工科大学・青野友哉准教授にお話しいただきました。

地域特有の文化を記録し、他地域との「差異」を活かした発信の仕方が必要であると、また「知ること（研究）」と「実践」が重要であるとの点に、惹きつけられました。多種多様な事物のつながり（クラスター）の紹介が新たな発想を生み、文化や人材を育むというお話に感銘を受けました。

第1分科会「社会に開かれたコレクションの系譜～北海道大学附属図書館北方資料～」北海道大学・谷本晃久教授の講演では、北海道大学附属図書館の歴史をひもときながら、コレクションの歴史、資料を継承してきたライブラリアンの歴史が紹介され、大変興味深い内容でした。北方資料のデジタル公開は、地方において研究をされている方々には、大変な恩恵になっています。講演のまとめ部分でSDGsの一環として、「平和と公正をすべて

の人に」のくぐりには、あらためて図書館の役割、司書の役割について、気づかされる点がありました。

第4分科会「ネット文化資源の読み方・作り方」では、北海学園大学・岡田一祐講師にその地域の記録、地域の記憶を継承するために図書館が果たす役割を、提唱していただきました。コレクションとして残していく作業には、図書館職員が資料の価値を理解すること、また未来に継承していく（つないでいく）仕組みを作ることが必要であると思いました。また博物館、図書館、文書館の資料や収蔵物が、インターネット上で密接につながっていく勢いをあらためて感じました。

新型コロナウイルス感染症への対応策として、オンライン開催による研修会が導入されて、環境がととのえば一組織から複数の参加が可能になりました。令和5年度からは、対面型での研修会が徐々に増えると予想されますが、多様な研修を可能にしたオンライン開催のメリットは今後も活かされていくものと思います。

（報告 釧路短期大学附属図書館）

令和4年度の活動

本学開学40周年記念並びに滝川市立図書館連携
10周年記念企画として、各種事業を開催しました

國學院大學北海道短期大学部図書館事務室 西村 千夏

本学開学40周年記念、そして滝川市立図書館との連携10周年記念として、令和4年9月から10月にかけて各種事業を開催しました。コロナ禍ということで不安もありましたが、規模を縮小することで実現しました。

滝川市立図書館主催の「絵本作家・柴田ケイコワークショップ」では、絵本作家・柴田ケイコ氏をお招きし、絵本の読み聞かせや「おもしろデコめがねを作ろう！」と題したワークショップを行いました。子どもたちは勿論、大人も夢中になって作っていたことが印象的でした。

「國學院大學図書館の名品『天下人とその時代』」では、國學院大學図書館が所蔵する「豊臣秀吉朱印状」等の天下人関連史料計18点を、その時代の関連図書と併せて本学開学記念館と滝川市立図書館にて展示しました。初日にはオープニングイベントとして、本学国文学科所属・堀越祐一准教授による展示品解説も行われ、参加者は熱心に耳を傾けていました。

また、展示と併せて、大河ドラマ「どうする家康」をもっと面白く見るための特別講演会『古文書からみる天下人の時代』も滝川市役所ロビーにて開催しました。講演終了後も質問をしたり、配布資料と照らし合わせたりしながら再度展示品を確認する参加者も見られ、大変好評でした。

その他、オリジナルデザインのブックカバー・葉の配布や、滝川市立図書館と本学が連携して実施した事業の様子をパネルにして展示する「國短×滝川 連携のあゆみ展」を開催しました。

沢山の方々に支えられ、開学40周年、そして市立図書館との連携10周年を迎えることができました。今後も様々なイベントを開催できればと考えておりますので、その際は是非足をお運びいただけますと幸いです。



「國短×滝川 連携のあゆみ展」と
ブックカバー・葉配布時の様子

令和4年度の活動

「あのマンガの続きが読みたい！」総選挙2022を開催しました

帯人大谷短期大学附属図書館 水野 有子

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、さまざまな催しの中止や開催形態の変更を余儀なくされるといった日常にも慣れてしまいました。スリム化できた側面もありますが、これまで当たり前だった対面開催に二の足を踏むという現状に寂しさも感じます。

そんななか学生に一抹の楽しみをとということで、2022年7月、「あのマンガの続きが読みたい！」総選挙2022を開催しました。18歳成人で選挙権を得た学生が初めて迎えた国政選挙の時期に合わせて、当館で途中の巻まで所蔵する漫画のうち現在も刊行が続いている7作品で投票を行い、最も得票数の多かった作品を最新刊まで購入するという内容です。

当館は漫画を積極的に収集しているわけではありませんが、学生が卒業論文の題材にするなどの理由で、教員からの推薦や研究費での購入（使用后、当館へ移管）があった際には対応してきました。内容がカリキュラムに関連する一部の作品はその後も続刊を購入してきましたが、それ以外の作品はそのままでした。

今回のイベントでは、図書館利用者のみならずたくさんの学生に投票してもらえるよう投票箱を学生玄関のすぐそばに設置し、選挙看板（ホワイトボード）には各科の教員や職員からのおすすめコメントを掲示しまし

た。図書館未利用の学生に「図書館に漫画がある！」という事実を知ってもらい、利用のきっかけとなればと開催したイベントでしたが、終了後は漫画だけを読みに来たり、続刊が入ったことで最初から読み返したり、参考書と一緒に数冊借りてみたりと、思いのほか多くの学生の利用に結びついたと感じています。

ちなみに開票結果は、『ワンパンマン』（ONE/集英社）と『文豪ストレイドッグス』（朝霧カフカ/KADOKAWA）がまさかの一位同数でした。2作品の未所蔵巻の合計金額が予算を下回ったため、どちらも購入というめでたい結果となりました。



投票箱設置

令和4年度の活動

児童図書室の再出発

北海道武蔵女子短期大学附属図書館 赤坂 友子

武蔵では令和4年10月14日から児童図書室を再開しました。約2年半の休室を経てもまだ終息の兆しが見えないコロナ禍において、“とにかくもう一度始める”ということに重きをおきました。感染症対策として、ネット予約、人数制限、滞在時間約10分など新たに制度を定め、短時間でも楽しんで本を選んでもらえる方法として、テーマ別リストにもとづくパック型貸出を採用しました。

予約を開始すると、やはり何もかも制限付きとあって、利用者は以前よりぐっと少なくなりました。この2年半で子どもたちは成長し、生活環境も変化したことでしょう。郵便物が届かなくなるご家庭もありました。それは、自然と迎える「足が遠のく」という変化ではなく、コロナ禍における明らかな分断なのだと思感せずにはいられませんでした。

それでも「ここで本を借りたい」と思っていた利用者は確かにいました。そして実際に再開の日を迎えてみれば、そこには2年半の空白を一瞬で飛び越えてしまうような、本を手にした子どもたちの喜びにあふれた笑顔がありました。

たかが10分されど10分、日常のあれこれ、最近の面白かった本、今日の気分…話は尽きません。利用者が好きなテーマを選ぶと同時に、会話から生まれたヒントによって司書か

らおすすめされる貸出パック。その繰り返しにより開室1か月後には、当初想定していた「さっと選んですぐ退室」という滞在モデルから、「ほぼ貸し切りの児童図書室でテーマと本にじっくり向き合える10分間」に様変わり。よくしゃべる司書によるミニブックトークの特典付きです。そこには、本を介した利用者と司書の熱気に満ちた濃密な時間がありました。

令和5年4月からは、制限下での更なるサービス拡大を検討中。長いコロナ禍だからこその新しい活路を、これからも模索していきます。



4月にむけて春らしい装飾になった児童図書室

令和4年度・日誌

—令和4年—

- 4月27日～5月25日
北海道地区協議会役員会開催(メール会議)
出席4館

- 5月13日
私短図協全国理事会出席(Web会議)

- 5月16日～6月10日
私短図協全国総会出席(書面審議)

- 5月30日～6月7日
北海道地区協議会総会開催(書面審議)出席7館

- 6月8日～7月15日
第73回北日本図書館大会北海道大会・第62回北海道図書館大会(オンライン大会)出席(会場:オンライン、テーマ:縄文遺産からICTへ～図書館がつなぐ時代、場所、人～)。第2分科会「絵本が紡ぐフォークロア～現代絵本に描かれてきたもの～」の企画・運営を担当

- 6月30日
総会記録及び会費請求書送付

- 7月26日
「短期大学図書館研究第42号」原稿募集の案内を加盟館に送付(メール)

- 11月4日
令和4年度第1回北海道図書館連絡会議兼第63回(令和5年度)北海道図書館大会運営委員会(第1回)会議出席(web会議)

- 11月24日
日本図書館協会事務局へ「私立短期大学図書館協議会北海道地区協議会本年(2022年)の動き」を送付(メール)

- 12月21日
令和4年度第2回役員会開催(Web会議)

—令和5年—

- 1月30日
日本図書館協会事務局へ「『各県別概況北海道』北海道内短期大学図書館の概況(2022年1月～12月)」を送付(メール)

- 2月9日
令和4年度第2回北海道図書館連絡会議兼第63回(令和5年度)北海道図書館大会運営委員会(第2回)会議出席

- 2月21日
北海道地区協議会情報交換会開催(Web開催)出席5館

- 3月31日
「北海道地区協議会通信」No.44発行

令和4年度 会長及び役員館

- ◎会長 河村 芳行(北海道武蔵女子短期大学附属図書館長)
- 幹事館 釧路短期大学附属図書館
- 監査館 帯広大谷短期大学附属図書館
拓殖大学北海道短期大学図書館
- 事務局 北海道武蔵女子短期大学附属図書館